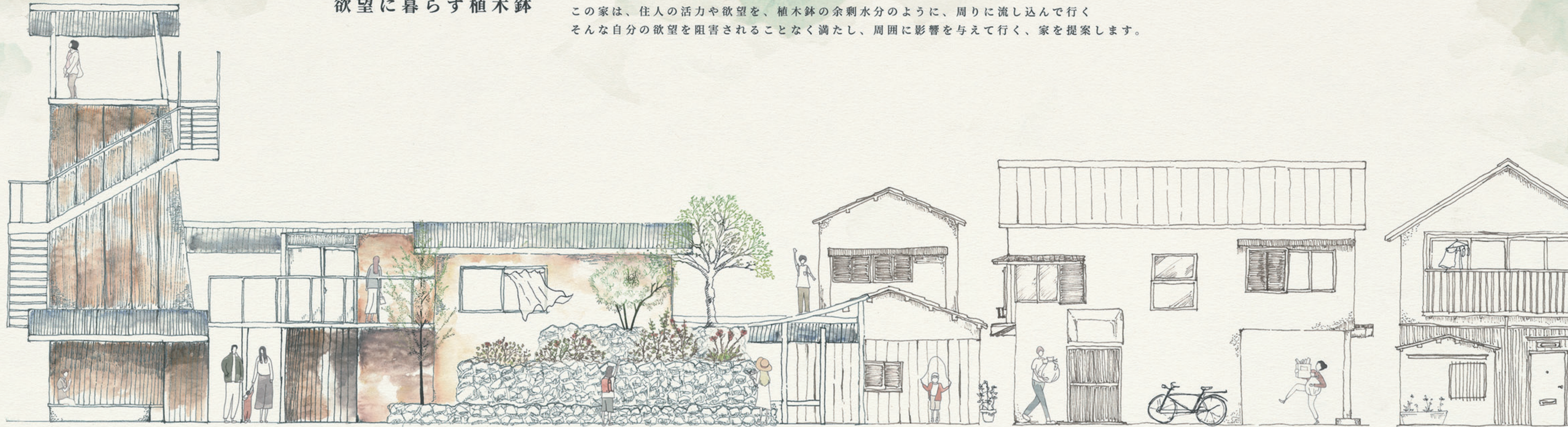


家というのは住人たちの欲望を満たす為に、より強固になり周囲とは切断的な建築になっていきました。そのように暮らしが内に閉じていった変化は、しっかりと受け止めなければならない

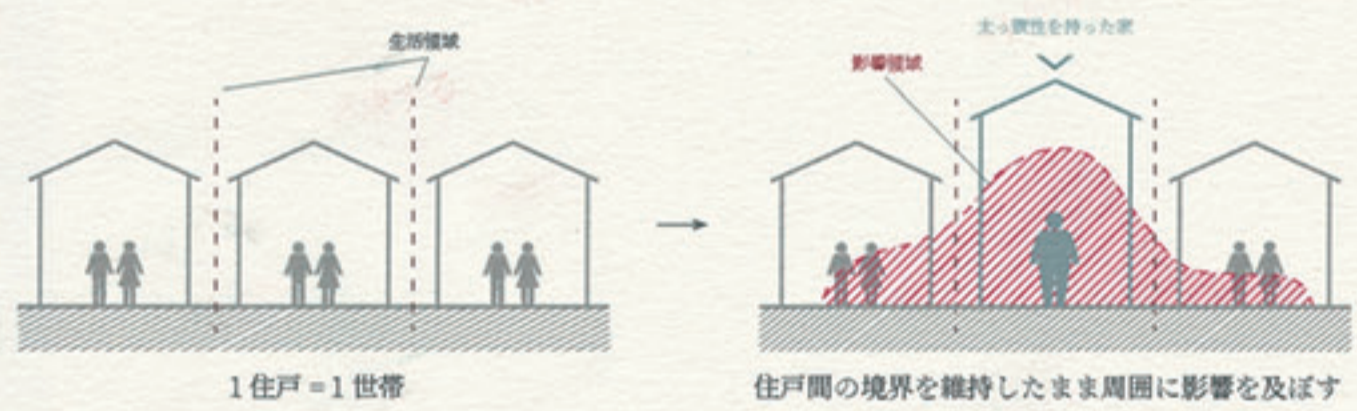
欲望に暮らす植木鉢

この家は、住人の活力や欲望を、植木鉢の余剰水分のように、周りに流し込んで行くそんな自分の欲望を阻害されことなく満たし、周囲に影響を与えて行く、家を提案します。



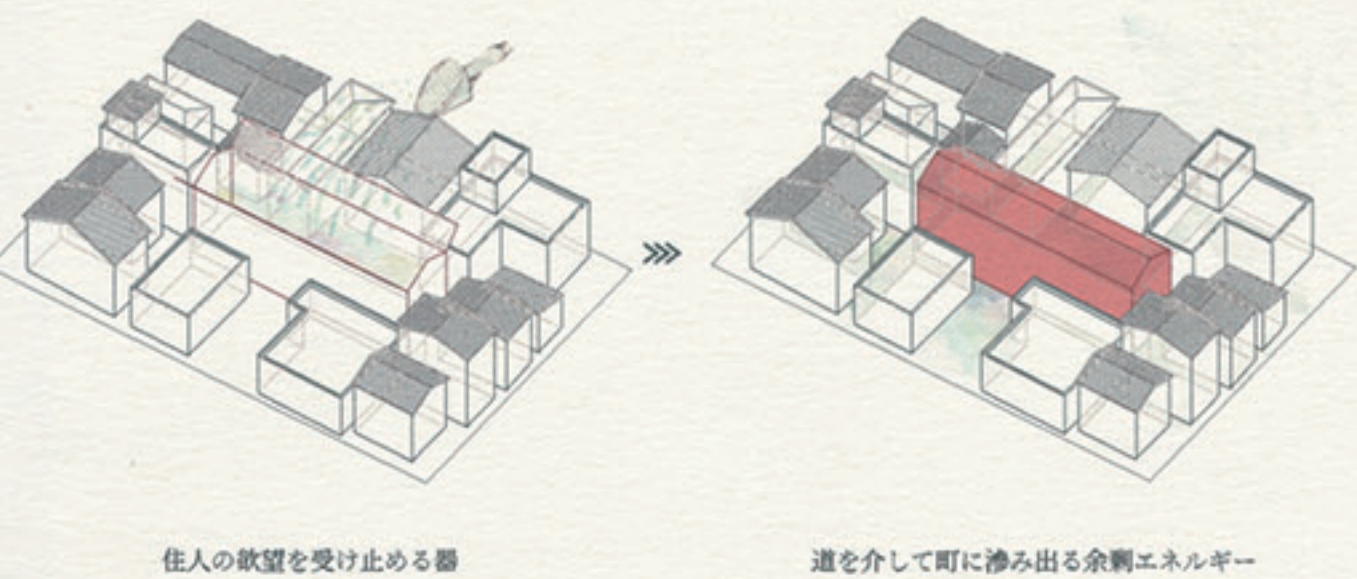
1 「1住戸=1世帯」

家というのは住人たちの自由や安全を担保し、幸福をもたらすものです。それは時に周囲に影響を与え、また周囲から何かを与えられる事も想像できます。しかし現代の人々はよりプライバシー性を求めていきました。住宅もそのニーズに合わせて、より外界から切断的な変化していきました。これは現代社会の「1住戸=1世帯」という形式が、生活を全て世帯内で解決させようとしている事で発生した問題だと捉えます。私はこの「1住戸=1世帯」という枠組みを今一度見直す事で、現代社会の抱える「多様性から生じる閉鎖感」を解決することを出来るのではないかと考えます。

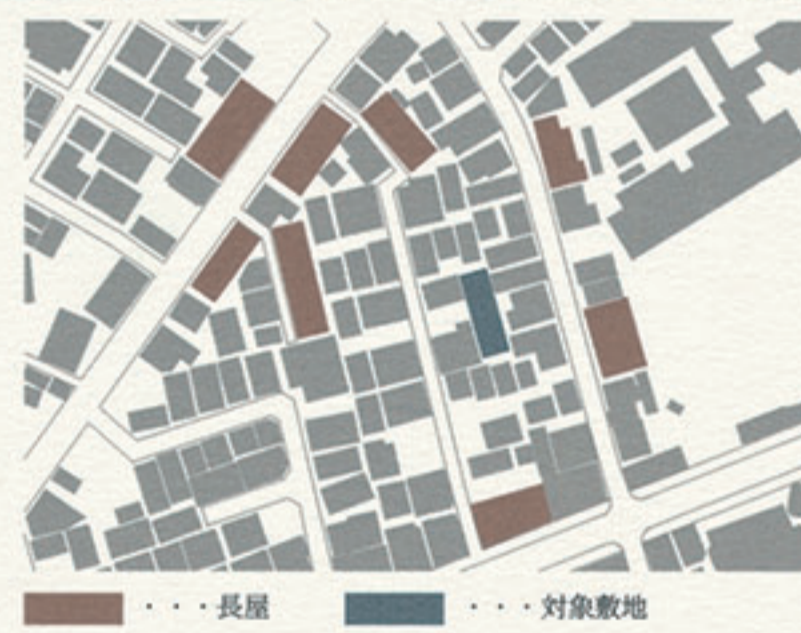


2 植木鉢のような家

植木鉢には受け入れるための大きな開口、「ナカミ」を育み守るための器、底面には余剰水分を水抜きをするための穴があります。私はそんな植木鉢のような性質が内在する家を提案します。植木鉢のような家は、住人の囁かな欲望をしっかりと享受し、それを決して外界に邪魔されることなく守っていきます。やがてその欲望が溢れそうになった時に、それは余剰エネルギーとなり周囲の人たちの暮らしを豊かにしていきます。



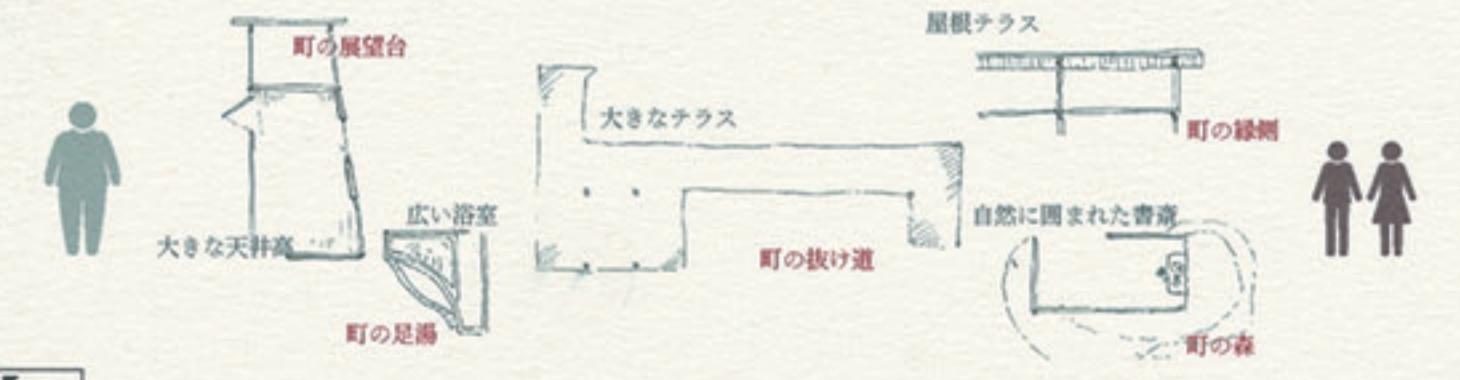
3 敷地



対象とする敷地は、東京都墨田区京島三丁目地区。この地域は木造密集地と昔ながらの長屋で知られ、迷路のような道が街区の中に存在し、住人たちの生活ネットワークとなっている。しかしその住人たちも高齢化が進んでおり、空き家発生も多くなっていき、下町の従来存在したような、密度の高い住人同士のコミュニティは失われている。

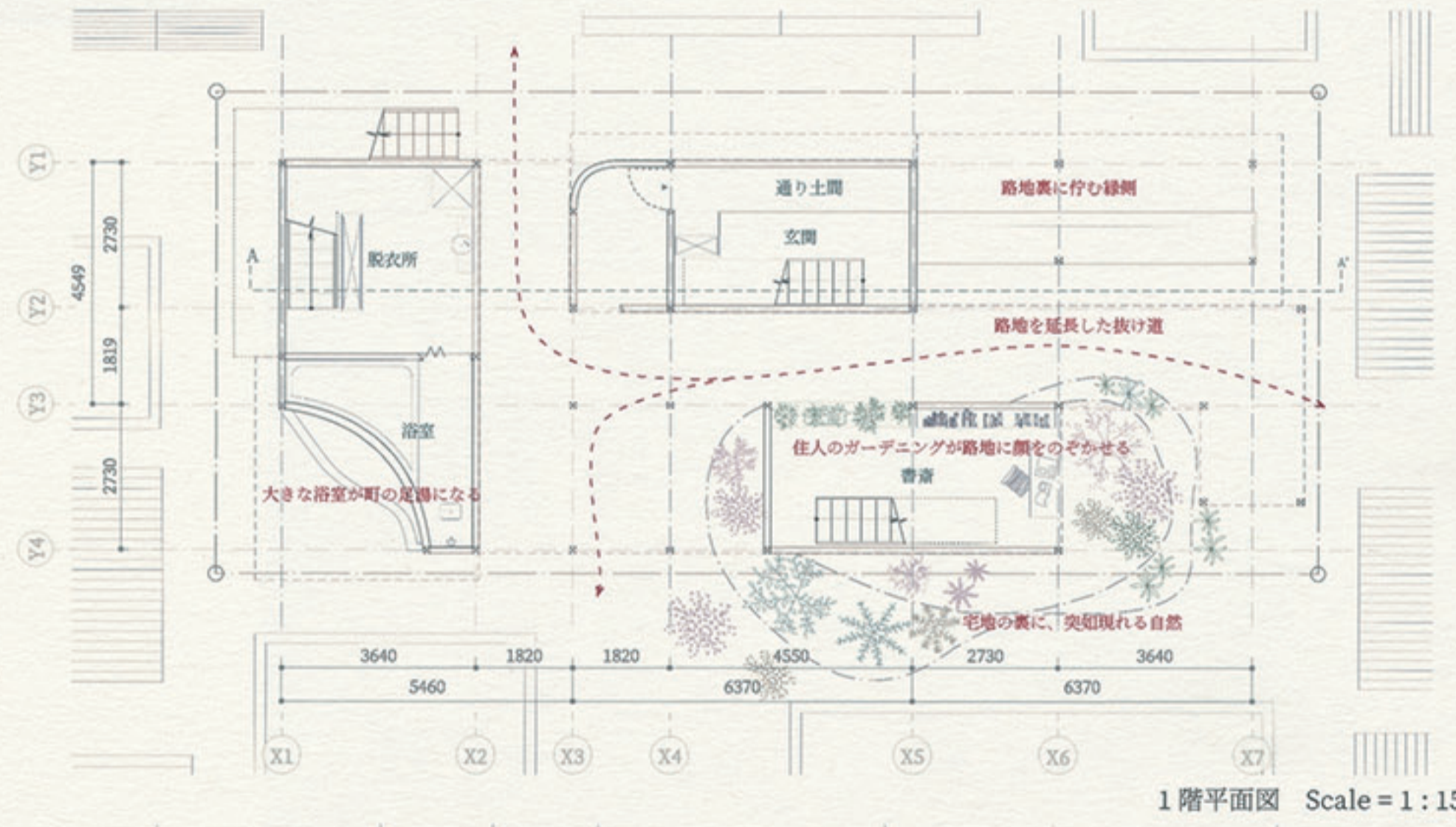
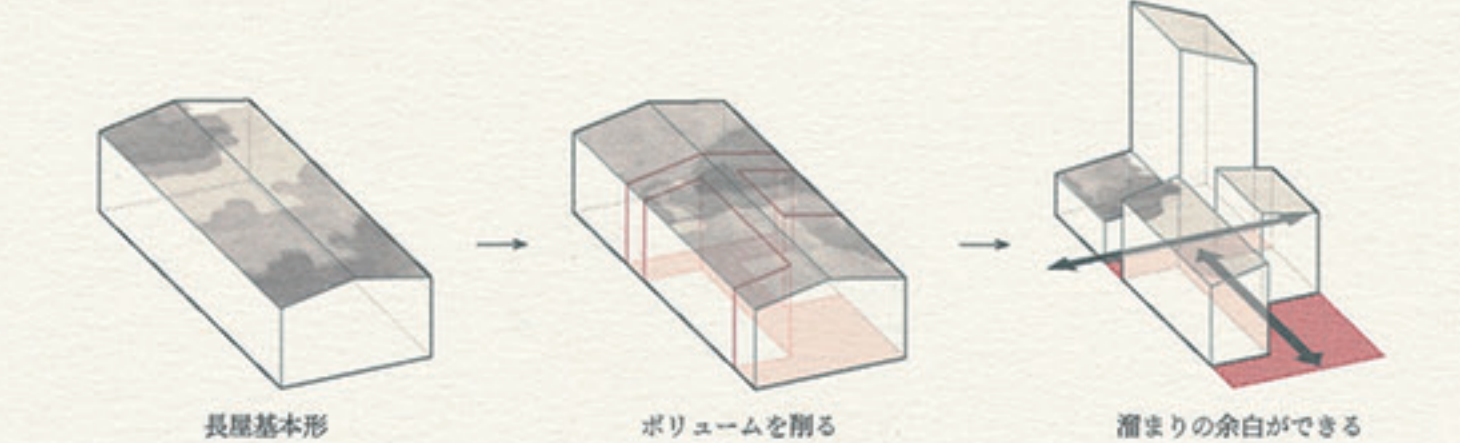
4 「私だけ」から「町」へ

この住宅では、住人の住まいに対する欲望が形になります。大きな天井高、広いテラスだったり、「私だけ」が満ちていきます。しかしそれらは同時に、町の人々に還元されていきます。住人に対して寛容になることで、初めて周辺環境に影響を与える住宅になります。

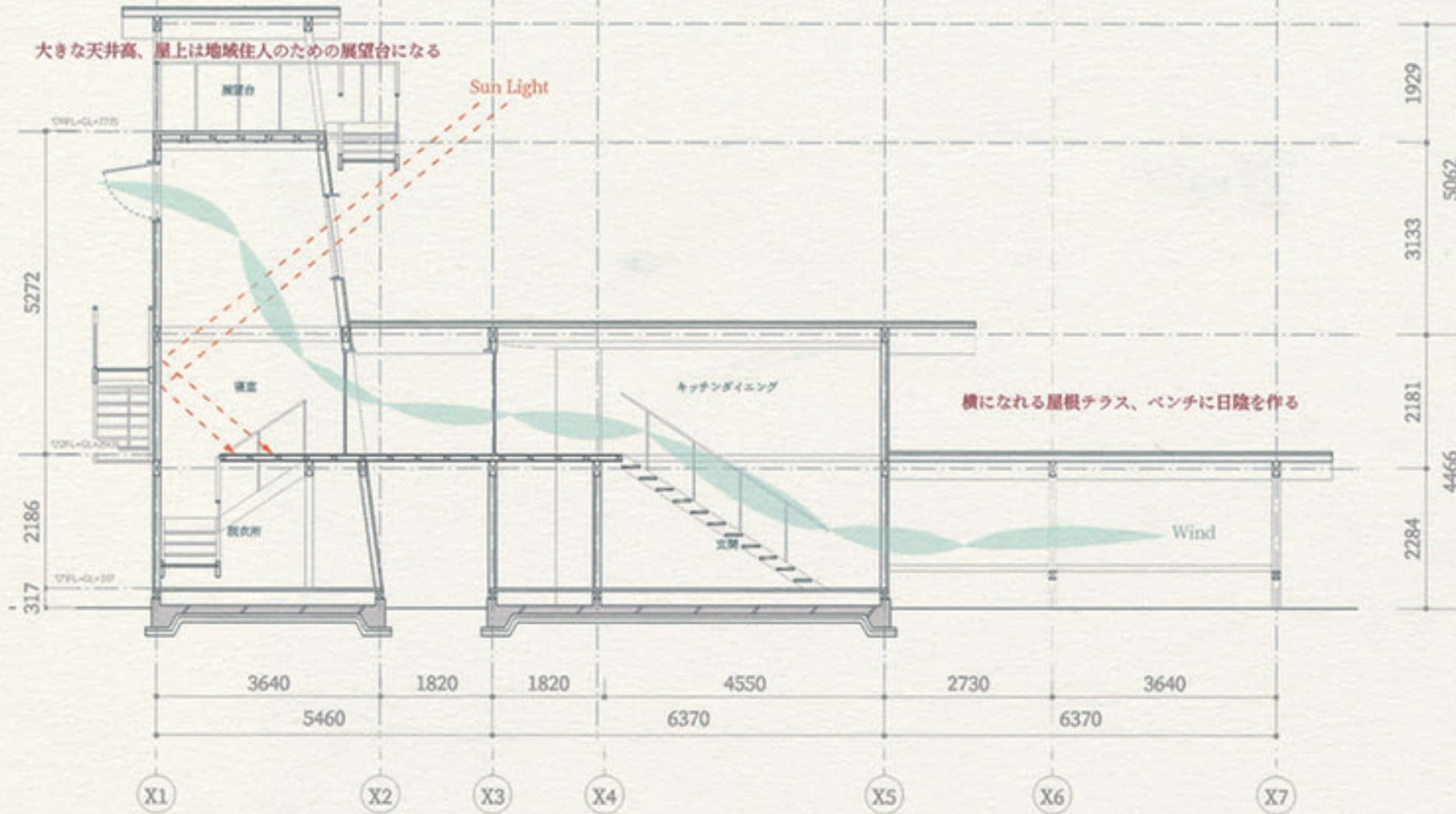


5 長屋再編

敷地周辺に長屋が残存することから、現代における長屋のあり方を再考し、地域に根ざした住居形式とコミュニティの形成を計ります。従来の長屋の形式に余白を与える事で、面する住宅が多くなる長屋のフットプリントを活かしたビルディング・タイプにしていきます。



1階平面図 Scale=1:150



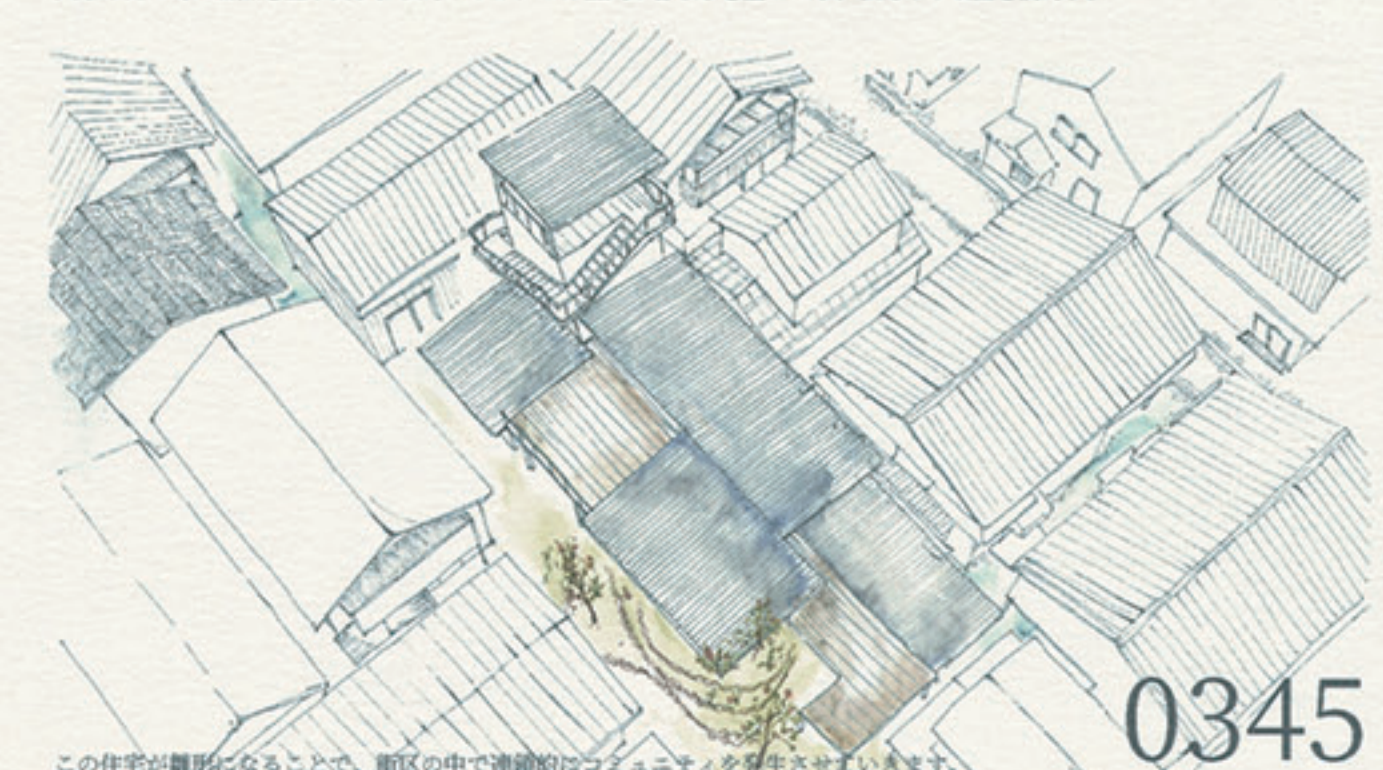
A-A'断面図 Scale=1:130



大きなテラスの下は、路地を延長した抜け道になり、町に新たな道と活気をもたらす。



大きな庭は町に自然を生み出す。私だけのテラスは住人の暮らしを豊かにし、私だけの欲望を満たす。



この住宅が賑わいになることで、街区の中で連続的コミュニティを発生させていきます。